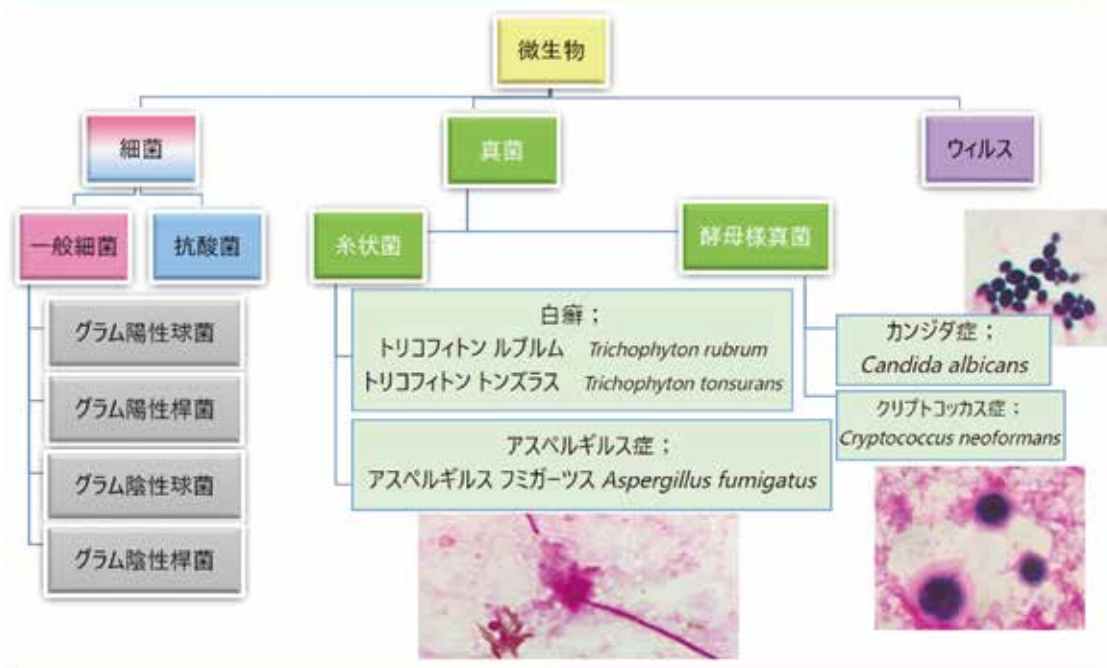


Contents

足白癬とは…／① 血液採取の溶血・乳びにおけるデータ影響について
／②③ 細菌検査統計報告、ちょっとひと言／④

足白癬とは…

真菌の種類



1. 足病変発症リスクの高いのは糖尿病患者さんです!

- ▶ 足潰瘍や足壊疽の治療経験のある人
- ▶ 靴ずれ、タコ、白癬症を有している人
- ▶ 腎不全、透析療法中の人
- ▶ 糖尿病抹消神経障害のある人
- ▶ 血糖コントロールが不良な人
- ▶ 高齢、独居、視力障害がある人

2. 足チェックは大切です!

- ▶ 見た目(変形、変色、キズ、むくみ)
- ▶ 温度(一部だけ冷たい、熱をもっている)
- ▶ 臭い(悪臭)
- ▶ 感覚(痛み、かゆみ、しびれ、鈍り)

3. 掃除機の塵における菌生存率

	2週間	4週間	半年
常温・乾燥	50%生存	10%生存	死滅
高温・多湿	生存	生存	生存

浴室や湿潤マットは洗濯・乾燥が重要です!

足をタオルで拭く、石鹸で洗う等の処置で効果充分です!

家庭内感染を予防するには清掃や洗濯を定期的に行うことが重要です。



前回に引き続き溶血と乳びについて説明します。前回はどのように溶血と乳びが起こるかを説明しましたが、今回はどのような項目に影響があるかをまとめました。

<溶血の影響で高値を示す主な検査項目>

・LD、K、AST、Fe、NSE、TP、ALB、Ca など

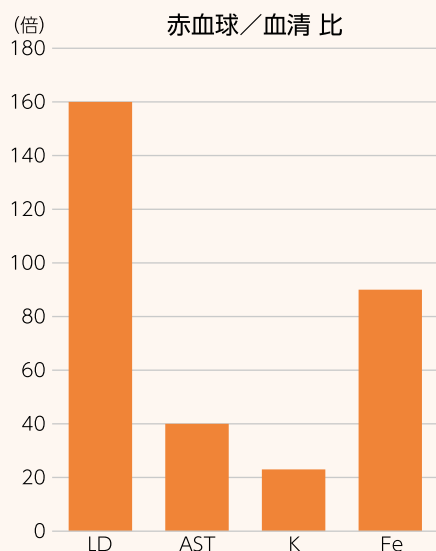
★高値を示す理由★

赤血球中濃度が血漿中濃度より高いことや溶血の赤色が測定に影響を与えることから偽高値が起こります。溶血でK値が異常高値となることはよく知られていますがLD、AST、Feも同様に高値を示します。これらの項目は特に溶血の影響が大きく、検査結果の解釈に注意しなければならないので総合報告書では項目の横に星を印字し、溶血の影響を受けていることを示しております。

【溶血高値】 赤血球/血清 比

	赤血球中
LD	160
AST	40
K	23
Fe	90

※諸説あり



<溶血の影響で低値を示す主な検査項目>

・インスリン、BNP など

★低値を示す理由★

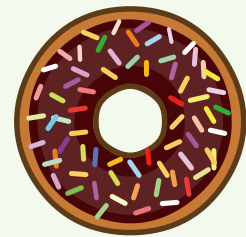
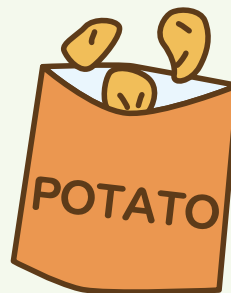
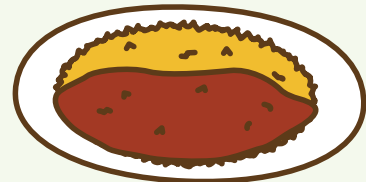
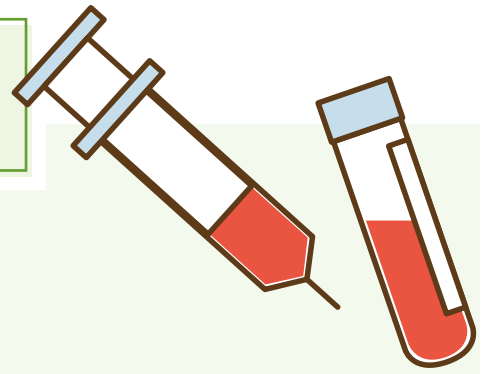
血球内から濾出した酵素により分解されることから起こります。溶血の度合いが強い場合、上記検査項目以外でも測定上影響を受け正確な値が得られなくなります。溶血による影響が疑われる検査結果については新たに採血されることをお勧めしております。



<乳び検体で影響がある検査項目>

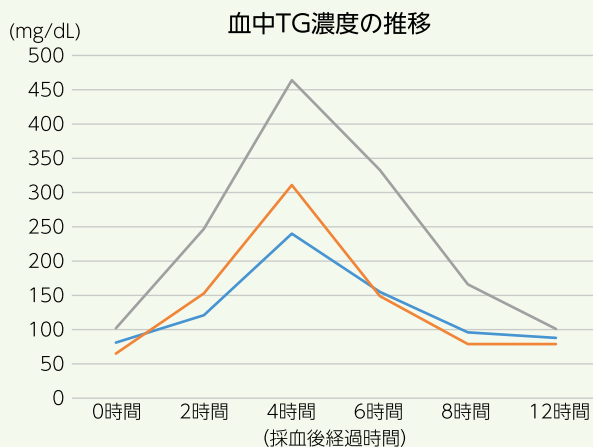
・ZTT、TG、TP など

乳びは食事により摂取した脂肪成分が血中に存在し、十分に分解される前に採血された場合に見られます。食後10時間程度空けて採血すると殆どの場合には解消されますが、脂肪が多い食事をされた後や脂肪を分解する酵素がうまく働いていない方は乳びする事があります。TP、TGが影響を受けますが、乳び(濁度)の度合いが強い場合、他の検査項目でも測定上影響を与え正確な値が得られない可能性があります。影響が大きいZTTとTGについて総合報告書では項目の横に★を印字し乳びの影響を受けていることを示しております。



【TG推移】

	TG値		
	①	②	③
0時間	81	65	102
2時間	121	153	247
4時間	240	311	464
6時間	155	149	333
8時間	96	79	166
12時間	88	79	101



この場合は食事の時間の確認が必要です。一般的に高脂血症の診断や治療効果の評価では、検査前少なくとも12時間絶食した空腹時に採血する必要があります。

細菌検査統計報告

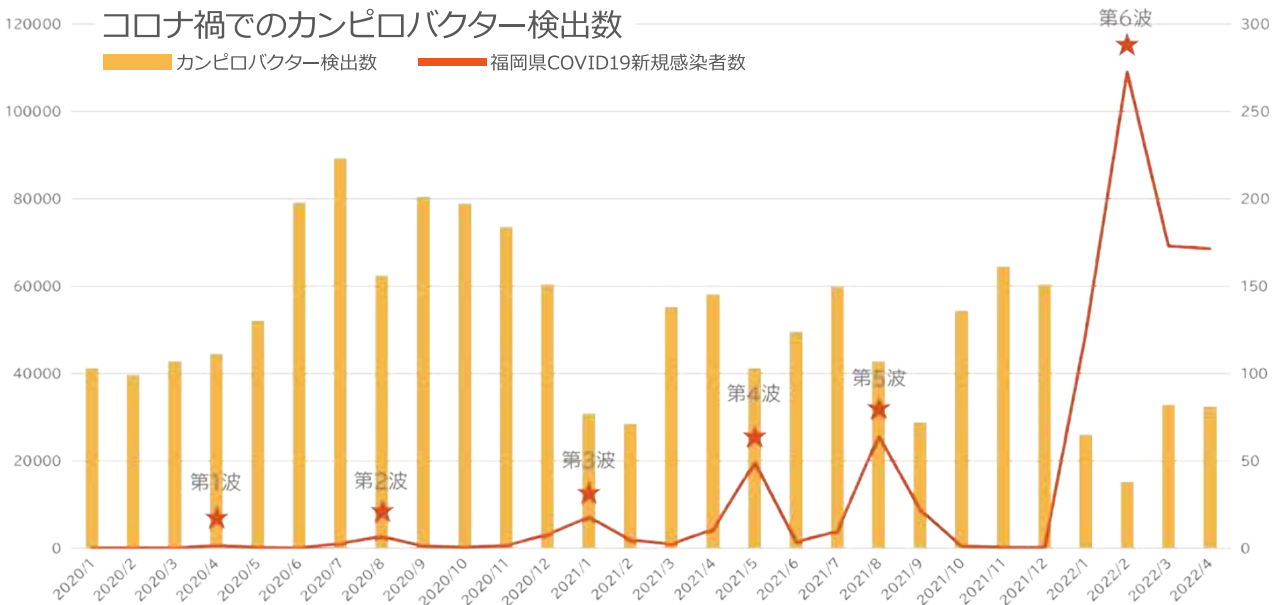
(コロナ禍でのカンピロバクター検出状況①)

当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況を一部取り上げてご報告いたします。その他の検査材料の細菌検出状況、薬剤感受性情報、薬剤耐性菌検出状況、腸管病原菌検出状況は、当検査センターホームページに掲載しています。

<https://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html>

カンピロバクターは腸管病原菌の中で最も多く検出されている菌であり、COVID-19の影響により、福岡市近郊におけるカンピロバクターの検出状況に影響はあったのか調査を行いました。2022年11月に「第92回日本感染症学会西日本地方学術集会」にて発表を行ったので一部報告します。

調査対象は2018年1月～2022年4月に便検体より検出されたカンピロバクターとし、月毎及び年代別に集計し、2020年を境にコロナ禍前後、および新型コロナウイルス感染症の発生状況の変動とカンピロバクター検出状況との関連を調査しました。



例年5月はカンピロバクターの検出数は増加傾向にあります。第1波では増加傾向がなく、また第2波、第3波以降第6波に至るまで、COVID-19流行時には検出数は低下する傾向でした。一方、COVID-19の流行状況がおさまっていた期間ではカンピロバクターの検出数は増加傾向でした。次号に続きます。

ちよつとひと言

先日太陽の塔を観覧しました。1970年の大阪万博以来、48年間内部公開されなかったこともあり、公開されて数年経つ今も大人気。塔の頂部には金色に輝き未来を象徴する「黄金の顔」、現在を象徴する正面の「太陽の顔」、過去を象徴する背面の「黒い太陽」という3つの顔を持っています。内部の生命の樹は、生命の進化の過程を示す展示となっており岡本太郎ワールドに引き込まれます。

万博開催当時には内部からエスカレーターで70m最上部まで上がったようですが、今はエスカレーターは撤去されており、腕の部分まで階段で上がれます。老朽化に伴い、内部公開も後数年という話です。2025年大阪万博開催決定で再注目されている1970年の万博遺産をゆっくり観覧できるのは今のうちかもしれません。

営業課 龍 昇太郎

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号

TEL 092-852-1506 FAX 092-852-1510

<https://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html>

E-mail : fma@city.fukuoka.med.or.jp

編集委員 田川 恭平 東田 和子 杉本 清美 畠山 典晃 高下 誠司 北島 史隆